

2月も半ばを過ぎ3月が間近になってくると、聞こえてくるのが春一番の便り。
春一番は立春(2月初旬)から春分(3月中旬)までの間、その年に初めて吹いた南よりの風を指す言葉です。

観測期間が決まっていることもあり、それ以前や以後のものは春一番とは認定されません。
また北海道・東北地方や沖縄県では観測条件に当てはまらないため春一番は吹きません。

語源は悲しい故事から

春一番という言葉の発祥は諸説ありますが、江戸時代末期に長崎県で漁師が出漁中に強風のあおりを受けて船が転覆し、多くの犠牲者を出したという故事があり、その後漁師たちの間でこの強風を「春一番」や「春一」と呼ぶようになったということを気象庁では紹介しています。

ただ、長崎県ではその前からこうした言葉はあったようで、さらに百年近くさかのぼった書物から「ハルイチ」の記述が見つかっています。このことは1959年には「俳句歳時記」で季語として収載され、その後新聞などで使われるようになり、広まっていったといわれています。



春一番と寒の戻りはセットのようなもの？

発生条件には冒頭の立春から春分という期間のほか、以下のようなものがあります。

- ① 日本海側を通過する発達した低気圧に対して南側の高気圧から吹き込む風であること。
- ② その風の風速は10分間平均で8m/s以上であること。
- ③ 前日より暖かな風であること。

その一方で春一番が吹いた翌日などは大陸からの高気圧で寒さがぶり返すことが多く、これを「寒の戻り」と呼んでいます。

強風なので様々な被害も引き起こします・・・

春一番は強風となるため海や山での事故が多く、過去には竜巻で電車が巻き上げられ脱線転覆したこともありました。

こうしたことから分かるように強風の被害には十分な注意が必要です。



From the author・・・寒暖の差が厳しい季節です。体調管理はしっかりしましょう！